

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 16

Contents

法人
「GANBAX」(ガンボックス)
バスケットボールスクール今年4月開校

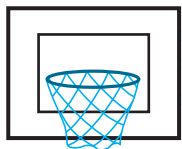
八戸大学
青森県南・岩手県北県際交流連携セミナー開催
総合実習館エントランスホールへ
絵画「遺跡の女達」が寄贈

八戸短期大学
看護学科開設記念植樹式・贈呈式を開催

光星高校
カンボジア カムリエン高校と光星高校が姉妹校協定締結
台湾研修 アクトの翼に参加

野辺地西高校
祇園囃子保存部 伝統の継承を続けて





バスケットボール スクール

八戸校 4月開校



(株)GANBAX（ガンボックス：スポーツウェア製造・販売）は、学校法人光星学院及び(株)日本プロバスケットボールリーグ（bjリーグ）の協力のもとに、バスケットボールの競技力の向上を目的に、小学5年生から中学3年生の男女を対象として「バスケットボールスクール八戸校」を開校する。

このバスケットボールスクール（会場は光星高校体育館・年間40日間）は全国で初めての試みであり、去る1月12日に八戸大学・八戸短期大学総合研究所市内オフィスで行われた記者会見には、(株)ガンボックスの安藤寛常務取締役、日本バスケットボール協会の公認コーチを務める高橋孝太ゼネラルコーディネーター、

光星学院事務局長代理の古川聡総務部長が出席した。

バスケットボールスクール八戸校4月開校に先立ち、プレイベントとして、1月30日に元能代工高監督加藤三彦氏と、おいらせ町出身の北向由樹選手（埼玉ブロンコス）によるバスケットボールク

リニックが開催され、八戸市近郊の中学生が多数参加し真剣に熱心に取り組んでいた。

また、2月26日には、八戸大学・八戸短期大学総合研究所スポーツ健康科学研究会が主催する定例勉強会で加藤三彦氏による講演会を開催する。

講演会は、午後7時から八戸グランドホテルにおいて、中学生以上のバスケットボール愛好者200人（先着）を対象としており、参加費は無料となっている。申し込みの問い合わせは同研究所
＝電話（0178）73-3344＝まで



「新年の集い」開催

学校法人光星学院「新年の集い」が、2010（平成22）年1月11日（月）午後3時より八戸プラザホテルアーバンホールにおいて開催され、来賓、法人役員、外郭団体代表、教職員の総勢約360名が出席した。会場では、開宴30分前より箏曲演奏が響き、新年らしい雰囲気の中で賑やかな集

いとなった。八戸大学木鎌耕一郎准教授（司祭代理）による新年の祈りが行われ、続いて中村覺理事長より挨拶が述べられた。

「昨年中は、政権交代で新内閣が発足し、政策・行政が刷新。裁判員制度や高速道路料金割引制度など、さまざまな新制度がスタートした年であった。本法人は八戸短期大学の看護学科が八戸地域の皆様のご支援のもとに設置されたことは喜ばしいことであった。スポーツでは、大学のサッカー部の天皇杯、高校野球の選抜大会出場などの活躍が目立った年であった。少子化が進み、地域



の経済情勢は厳しく、将来の見通しを立てづらい状況において、全職員の一致協力は不可欠である。常日頃申し上げているが、次の明るい時代の建設のために、一人ひとりの力を存分に発揮し、共に力を合わせ、今しばらくは共に苦勞をしていただきたい。」

続いて法官新一常務理事が乾杯の音頭をとり、和やかに2010年がスタートした。



青森県南・岩手県北県際交流・連携セミナー ～北緯40°ナニャトヤラ連邦の形成に向けて～

総合研究所主催の「青森県南・岩手県北 県際交流・連携セミナー」～北緯40° ナニャトヤラ連邦の形成に向けて～が11月8日(月)、八戸パークホテルで開催した。このセミナーは八戸、久慈、二戸の三圏域が名称を「北緯40° ナニャトヤラ連邦」と決定し、更に地域一丸となり取組みを進めていく中で、観光振興を醸成しようと開催したもの。

昨年11月開催の「新しい地域づくりを考えるシンポジウム」に続く2回目で、今回は青森県、岩手県、八戸市、三圏域連携懇談会の協力を得ることができた。

セミナーには三圏域の行政、観光関係者ら約120名が参加した。基調講演では、八戸短期大学客員教授三村三千代先生が「広域観光と地域のイメージづくり ―新幹線青森開業にむけて―」と題し講演、

続いて三圏域連携懇談会の取組状況について、八戸市総合政策部長 高島 司氏(三圏域連携懇談会事務局)が報告した。また、パネルディスカッションでは、佐藤大介 氏(古牧温泉青森屋総支配人)、町田直子 氏(NPO 法人 ACTY 理事長)、貫牛利一 氏(NPO 法人久慈広域観光協議会専務理事)、小笠原護氏(クラブツーリズム(株)執行役員・販売促進部長)の4

名が2時間に渡り広域観光を中心とする交流・連携について活発に意見交換した。

セミナーは総合研究所所長代理 八戸大学丹羽浩正ビジネス学部長の御礼の挨拶で閉会した。その後の交流会には約50名が参加し講師、パネラーらを囲んで交流を深めた。

この模様は、12月6日(日)と20日(日)に八戸テレビ放送で放映された。



「遺跡の女達」 絵画寄贈

平成21年10月、八戸市ゆかりの洋画家故 神戸文子氏(1926年～2009年)のご遺族様より、作品「遺跡の女達」が寄贈され、11月27日に行われた学院理事会終了後、理事・評議員が出席してお披露目が行われました。

神戸文子氏は、生前国内外の油彩風景画を展開し、近年には中東地域の取材を

元に砂漠地方の人々を描いたシリーズを制作され、日展特選、光風会賞、女流画家協会賞等を受賞された。

この作品は、八戸大学・八戸短期大学総合実習館1階エントランスホールの壁面に掲額されておりますのでぜひ一度ご覧ください。

第13回 スポーツ健康科学研究会公開講座

総合研究所とスポーツ・健康科学研究会(八大・八短大の体育・スポーツ系の教員が中心メンバー)主催の「第13回スポーツ・健康科学研究会」が12月4日(金)、総合研究所市内オフィスで行われた。スポーツ・健康科学研究会は月例で研究会を開催している。13回目の今回、JATI(日本トレーニング指導者協会)東北支部の協力を得て、森丘保典先生(日本体育協会)をお招き、公開講義として「トップアスリートの育て方―科学的トレーニング再考―」について話していただいた。講義には研究会員のほか八戸大学人間健康学部の学生らも参加し、森丘先生がか

かわったトップアスリートのエピソードなどに興味深く耳を傾けた。また、スポーツ科学研究に関する問題意識をベースとしての「優れた指導者とは?」「科学的トレーニングとは?」「ほんとうに指導者は必要なのか?」といった原理的な問いについても他の参加者らと考えた。

受講者で日本トレーニング指導者協会の資格保持者には、資格継続単位0.75単位が付与された。

◇総合研究所とスポーツ・健康科学研究会は、バスケットボール指導者などを対象とした元能代工

業高校監督の「加藤三彦氏によるバスケットボール講演会」を、2月26日(金)19時より八戸グランドホテルにて開催する。



八戸大学 創立30周年

昭和56年、青森県南・岩手県北初の文系大学として開学した八戸大学は、平成22年に30周年を迎える。

昨年7月に「30周年 新たな絆とキャンパスの発展」という学長方針が示され、10月には実行委員会が組織された。

平成22年10月に記念式典や祝賀会の挙

行が予定され、現在は記念誌作成の準備が進んでいるほか、30周年事業の企画立案が進められている。

八戸大学では10年前の平成12年に20周年記念式典を挙行し、この10年間は、商学部からビジネス学部への学部学科名称の変更や人間健康学部の開設、研究所市

内オフィスの設置など、大きな変革があった10年でした。

地域社会・企業・後援会役員・同窓生・現役学生・父母・教職員等のより一層の絆が深まる30周年となるよう準備を進めている。

09' 八戸観光大学 スタート

総合研究所と青森県共催の「あおりツーリズム人づくり大学『09八戸観光大学』」が12月2日(水)からスタートした。09八戸観光大学は人づくりの経営講座で、新幹線青森駅開業を見据え、外貨(地域外からの収益)を稼げる地域力・企業力・人間力を高めることを目的に開講。「04八戸観光大学」から始まり6回目となる今年は、定員を超える28名の受講者が集まった。

第1回目の講義では、光星学院高等学校OBのアルパジョン社長松坂和治氏が、八戸市内に3店舗、新宿京王百貨店、ららぽーと新三郷(埼玉県)合計5店の出店経験をもとにしたブレのない経営、人

づくりなど話された。その後、参加者による自己・企業紹介と交流会が行われた。

続く12月7日(月)、第2回目の講義では、星野リゾート古牧温泉青森屋佐藤大介氏と、ネット通販を起業し「葉とらずリング」などで爆発的なヒット商品を出した、かめあし商店の成田光秀氏がその戦略と活動を語った。

今後、IBC岩手放送アナウンサー菊池幸見氏や日本銀行青森支店長鶴海誠一氏らを講師に迎え、

古牧温泉青森屋での宿泊現場研修を含める全13講義が2月16日(火)まで開催される。



コラム

ハイ、こちら総研です。 ソーケンってどこ？

卒業生、ご父母や学外の方々には、総合研究所が市内オフィスを持っていること、そしてそれがどこにあるのかをご存じない方も居られるのではないのでしょうか。

まず、総合研究所は美保野のキャンパスに本拠地があります。さらに、商工会議所のあるビルの6階に「市内オフィス」があります。

以前、大手電気製品メーカーのトップが言っていました。「基礎研究所は山の中に作れ、応用研究所は研究者が通勤時出来るだけ多く交通機関を乗り換える場所に作れ」と。言い得て妙です。乗り換えが多い分、人と接することが多くなります。基礎技術を応用して、喜ばれる商品を開発するには、それを使う人たちの顔を見、生活振りを想像しなければ

不可能です。人間が何らかの形で関与する内容の研究は、人と接し人の生活を思い起こさなければ、良い研究は出来ません。いくら通信手段が発達し宇宙の彼方とテレビで会話ができる時代でも、情報の受発信に於いて人間同士の接触には勝てません。無機質な通信手段より、相手の表情は勿論態度・小さな仕草・見えないうい等感性を持って受け止めて、初めて分かることが多いからです。

総研が目指しているところは、地域への貢献です。地域は人によって作られます。いろんな角度からいろんな課題を追いかけていますが、結局「人」を通して地域を見つめ、地域に役立とうと心掛けています。「人」に近付き、関係を深める便利な場所として「市内オフィス」を持った訳です。ですから、ここで出来るだけ多彩な講習会やセミナー、会議を開

催しています。皆さんにはどんどん訪ねて来て戴きたいのです。

「市内オフィス」には皆さんが講習やセミナーを受けたりする研修室があります。所長室もあり応接セットもあります。所長執務専用で、皆さんけじめを守っていますが、お客様が見えたと、ここにお通ししてゆっくりして戴きます。資料は勿論、作業のためのスペースとテーブルもあります。

大学の研究所と言っても特別なところではありません。皆さんに集って戴き、大学・短大のメンバーや研究所員と交流して戴き、出来れば、地域の将来、地域の幸せを議論する場所なのです。

(総合研究所副所長 坂下 允章)

起業家養成講座

昨年4月に開講した総合研究所主催の「第1回起業家養成講座」が全8講義を終え、10月3日(土)に八戸プラザホテルで修了式を行った。続く「第2回起業家養

成講座」が11月21日(土)にスタートした。

第1回起業家養成講座の最終講義では、受講生が半年かけて練り上げた各自の起業案をプレゼンテーションし、ゲスト講師の投資専門家(株)ドリームビジョン代表取締役平石郁生氏と、フューチャーベンチャーキャピタル(株)外山和恵氏から事業案に対して評価、アドバイスをいただいた。その後の修了式では、14人が修了証書を受け取った。

第2回起業家養成講座では、八戸市内在住の方を中心に、具体的起業案を持った方、第2創業目的の方な

ど12名の受講生が集まった。初日の講義では、大谷主任講師がヤフーバリューインサイト(株)起業時からの記録を収めた画像などを流し、大谷先生と受講生が自己紹介など行った。講義終了後は懇親会を行い、受講生、大谷主任講師や講座監修の丹羽浩正ビジネス学部長が交流をはかった。

第2回講座は3月まで8講義が開催される。第1回講座の修了生のなかから「みちのく・ふるさと貢献基金」による助成が決定し、さらに、みちのく銀行からの融資がきまった方が出てくるなど、着実に成果が上がっている。



野球教室開催

10月18日八戸市東運動公園野球場において八戸市の小・中学生を対象に野球教室を実施した。天候にも恵まれ午前中は小学生の部、午後には中学生の部と2部制で行った。

参加者は、小学生93名、中学生100名と新型インフルエンザの影響もあり例年に比べると若干少なかったが、小・中学生は元気に本学の学生たちと野球に取り組んでいた。

小学生の部では、テーマを「小学生との触れあい」とし、技術の向上を求めながらもまずは野球を好きになってもらうということを考えながら指導にあたることとした。内容については、指導者の方々の要望もあり例年同様基本練習を中心とし、ウォーミングアップ、キャッチボール、トスバッティング、各ポジションに別れての守備練習、バッティング、ダウ

ンと組んだ。学生たちもテーマに沿って小学生に明るく、楽しく指導してくれた。中学生の部では全体の内容は小学生と同様だが小学生とは違い基本を重視しながらも技術向上に比重を置いた練習とした。また、小・中学生の指導者の方々にもグラウンドに入っただき学生たちと一緒に指導してもらおうと共に学生たちとコミュニケーションを図ることで日頃の指導の悩み等を解決してもらおうこととした。投手の練習では、小・中学生一人ひとりの球速を測定して本人に教えることとした。自分の球速を聞いて喜んだり、くやしがりたりと子供たちの素直な表情が伺えた。それぞれの閉会式の後、学生たちの「楽しかった?」という声に子供たちが満足そうに頷いてくれていたことがとても印象的だった。最後に学生たちには、技術の向上は元よりウォーミングアップ、

クールダウンの大切さを子供たちと確認させ無事に終了した。





美保野キャンパス

クリスマス企画2009



去る12月4日(金)、八戸大学学生会主催のクリスマス企画が、昨年度に続き、総合実習館1F（エントランスホール）にて、開催された。司会進行は学生会1学年女子学生の3名。開式の言葉が述べられた後、厳粛な雰囲気の中、人間健康学部准教授 木鎌耕一郎先生より、クリスマスに関わるお話しと共同祈願がおこな

われた。

続いて同会場にてクリスマスパーティーを実施。八戸短期大学ウィンドアンサンブルによるクリスマス演奏に始まった。乾杯後、クリスマスツリーをメインにきれいに飾られた会場では、ピザやお菓子などを食べ、豪華プレゼントの当たるクリス

マスゲームなどで終始にぎやかに進行され、学生会執行委員長 米塚泰祐君による閉式の言葉で終了した。

今後も、美保野キャンパスを盛り上げていくための、学生会の様々な企画に期待していきたい。



第15回 大学・短大合同就職合宿

今年で15回目を迎えた大学・短大合同による就職合宿を11月21日(土)、22日(日)の1泊2日の日程で、就職活動間もない3年生（短大1年生）を対象に昨年同様、三沢市の古牧温泉青森屋で実施した。当日は、短大生2名を含む59名が参加。講師も昨年同様、ジョブカフェあおもりのキャリアカウンセラー6名（内、1名は八戸短期大学卒業生の花田亜美氏）を迎え、それぞれ9名～10名の6グループを編成し、今後の就職活動について少人数によるきめ細かい指導を受けた。

第1日目は開会式後、事前に行った適性検査の解説を含め自己分析を中心に履歴書、エントリーシートの書き方を21時30分頃まで、第2日目は面接の基礎からロールプレイングを12時まで、グループごとにそれぞれみっちり、厳しく、丁寧な実践指導を受けた。

履歴書を作成できず、部屋に帰ってから明け方に掛けて完成させ、明朝、開始前

に添削をしてもらう学生の真剣さを目の当たりにし、就職合宿に参加した学生の内定率が高いのが頷けるような気がした。

なお、参加した学生は「就職活動の流

れを理解できた」「履歴書が書けるようになった」「大変有意義な2日間だった」と感想を述べるなど、それぞれ満足感が漂っていた。



大学・短大外郭3団体合同懇談会開催

八戸大学・八戸短期大学の外郭3団体合同懇談会が、1月30日(土)八戸プラザホテルクリスタルホールで開催され、両学の後援会・同窓会・父母の会の役員が一同に会した。合同懇談会は、大学・短大の状況を報告することと、3団体役員の懇親を深めることを目的に毎年実施されている。

懇談会では、3団体を代表して山田政信八戸大学後援会会長が「大学の30周年記念事業への取り組みや大学・短大そして学校法人全体への支援等3団体が丸々となっていきたい」と、挨拶された。

本学院からは中村覺理事長がイノベーション基金への御礼とともに、この10年を振り返りながら「新学部学科の開設など魅力ある学院づくりに取り組んできた。今後も3団体のご理解を頂きながら事業を展開していきたい」と挨拶、続いて蛇口浩敬大学・短大運営会議議長から、就職状況や看護学科の動向、短大の認証評価終了、研究所や学生教職員の地域活動など大学・短大の近況について報告がなされた。

その後、このたび新しく就任した中川原俊雄八戸短期大学後援会会長が挨拶され、乾杯の発声とともに、和や

かに懇談が行われた。

出席した約90名の役員は、両学や各団体の近況について情報を交換し、有意義な合同懇談会となった。



「八戸大学」OB&OG訪問 part16



「道の駅なんごう」
曾我博美さん

プロフィール

南郷高等学校・八戸大学商学部卒。
卒業後は民間企業を経て、平成16年
から「道の駅なんごう」に勤める。

Q：学生時代の思い出

A：学生時代の一番の思い出は、友達がたくさんできた事です。バイト中心の大学生活でしたが、勉強も遊びもとても楽しく、充実した毎日でした。大学で出会った友達とはもちろん今でも仲良しです！

Q：今の仕事に就くきっかけは？

A：今の職場は実は大学生の時に4年間アルバイトをしていたんです。そんなご縁もあり前職を退職後この仕事を始めました。

Q：やりがいは何ですか？

A：道の駅は、遠方からのお客様も多く、たくさんの方が来店されます。そんなお

客様から様々な感想を聞くことができ、「ありがとう！」と言ってもらえる事がこの仕事のやりがいです。もちろん良い事ばかりではありませんが、そういった事も成長につながっていると思います。

Q：在学生へメッセージをどうぞ

A：学生時代の時間は充実していると思います。勉強はもちろん4年間でしかできない「遊び」「友人」を大事にしてください。私は卒業後自分の夢の1つを叶える事ができました。夢は必ず叶います。“後悔”はしないでください。自分のやりたい事、目指しているものには諦めずチャレンジして欲しいと思います。

看護学科開設記念植樹・贈呈式

平成21年11月26日、八戸大学・八戸短期大学総合実習館の前庭において、看護学科開設を記念して、「八戸短期大学看護学科開設記念植樹のための教職員有志の会」35名（発起人代表：蛭田由美学科長、橋本功教授、高坂郁子学務部長）による花木2本の植樹式が行われた。植樹の主目的は、看護学科開設を記念し今後の発展を祈念すると共に本学キャンパス

の美化を図ることであるが、日本看護協会及び国際看護師協会の倫理綱領に賛同して地球の温室効果ガス削減に貢献することも目的とした。記念樹として選ばれた花木は、オオヤマレンゲ（別名天女花。花言葉は、変わらぬ愛）とハナミズキ（花言葉は、公平、返礼、華やかな恋）であ



る。植樹式では、初めに橋本発起人代表より有志各位の協賛に対する謝辞があり、参加者全員で植樹を行い、その後、高坂発起人代表により有志全員の氏名が刻印されている記念柱の除幕が行われた。次いで、今後の管理のため記念樹を短大へ贈呈する式が行われた。まず、蛭田発起人代表から短大へ記念樹と募金残金を寄託する挨拶があり、これに対して蛇口学長より謝辞があった。最後に、麦の種子数粒を入れた風船を飛ばすことにした。麦を入れた理由として、麦には「富、繁栄、希望」という花言葉があり、また、ヨハネ伝に「一粒の麦」という有名な記述があるからである。色とりどりのこのような風船を参加者全員が数個ずつ手に持ち、看護学科が記念樹と共にすくすくと成長することを祈りながら、合図と共に小春日和の青空へ一斉に飛ばし、植樹式兼贈呈式を終了した。新設の看護学科が記念樹と共にすくすくと成長することを心から祈る次第である。

平成21年度 保育者養成懇談会

平成21年11月25日(水)、八戸プラザホテルにて、平成21年度八戸短期大学保育者養成懇談会（幼児保育学科主催）を開催した。この保育者養成懇談会は、幼児保育学科が日頃からお世話になっている三八・上十三・むつ地区および岩手県北の実習施設関係者を対象に、本学が持つ知的財産の情報提供等を行い、養成校と実習施設の協同を図っている。

今年度の保育者養成懇談会シンポジウムでは、「学びのコミュニティの形成に向けて～保育所・施設・幼稚園における地域に向けた取組について～」をテーマ

に選定。本学を中心とした「教育コミュニティ」の作成を目的とし、本学と関係各施設において連携を図り、保育者養成のみならず、卒業後教育や研修等においても連携を図り、より緊密な形で共同できるように考えている。

内海隆副学長の開会挨拶の後、シンポジストに松葉保育園松田一園長、知的障害者更生施設妙光園分枝勝則園長、八戸

文化幼稚園油川育子園長を招き、コーディネーターを同学科上村裕樹准教授が務め、参加者はシンポジストの貴重な意見に耳を傾けていた。

地域全体を巻き込んだ高等教育機関との具体的かつ緊密な連携は、全国的にもあまり例を見ないものであり、八戸地域が全国において、保育における先進的教育の地域となるべく努力をしていく。

地域社会に積極的に参加

ライフデザイン学科は「自立した個の確立を目指して、人生や生活をデザインすることに関連する基礎学問の領域から理論的知識を学修し、さらに実践等を通して、進んで社会に貢献するような行動とバランスある思考力を有する人材の育成」を学科目的としている。

本学科の学生は、学内で行なわれる講義だけではなく、地域社会に学生が積極的に参加し、様々な企業で施設見学（業界研究を含めた）を多種多様な形態で学修している。

NPO論では、受講者全員で模擬NPO団体を毎年つくり、活動目的の設定、

年間事業・収支計画の作成から活動評価まで、一連の流れを学修しながら学外現場での体験を通じて、NPOが目指す公益性理論を学んでいる。また、旅行業法と旅行実務Ⅰ・Ⅱでは、社団法人全国旅行業協会「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格を目指し、標準旅行約款を中心に各種約款について学修するとともに、三沢空港、八戸パークホテル、古牧温泉青森屋等の企業から協力をいただき施設見学を行なっている。その他にも地域産業論では、臨海工業地帯に出向き講義を受講したり、レクリエーション

の講義では、ボランティアスタッフ参加を通して、市民の方々と交流も図っている。



就職合宿開催

平成21年11月21日(土)・22日(日)、1泊2日の日程で就職合宿が開催された。平成23年3月卒業予定の学生を対象とし、毎年八戸大学との合同で開催し、今年で15回目の実施となる。この就職合宿は、本学の就職支援行事の中でも主軸になっており、この就職合宿の成果が毎年高い就職内定率につながっている。

今年度も昨年に引き続き、三沢市にある古牧温泉青森屋で行われ、講師には青森県若年者就職支援センタージョブカフェあおもりの6名をお招きした。講師の中には、本学幼児教育学科を卒業し、青森市内の児童養護施設へ保育士として

12年間従事した略歴を持つ花田亜美氏が本学の学生へ指導していただいた。

1日目に就職活動の全体像として自己分析、エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、経験の整理(学生生活の振り返り)、長所・短所の確認など、書類上での記入の仕方やまとめ方の指導を受けた。2日目では、1日目の振り返りをした後、面接について基礎知識を学んだ。面接トレーニングでは、1分間の自己PR、グループディスカッション、面接ロールプレイング(面

接マナー、個人面接、集団面接)を行い2日間の日程を終了した。

ライフデザイン学科1年生の参加学生は、限られた時間の中で行われるこの合宿で、様々なスキルを学び、厳しい就職戦線へ挑んでいく。各自が望む企業から内定をいただけるよう、頑張ってもらいたい。



平成21年6月27日(土)と12月3日(木)に八戸大学と合同の平成21年度合同企業研究会が開催された。この合同企業研究会は、6月の合同企業研究会ではライフデザイン学科2年生を対象に八戸プラザホテルを会場として開催。12月にはライフデザイン学科1年生を対象に八戸プラザホテルアーバンホールにて開催された。

6月に開催された企業研究会では、ラ

平成21年度 合同企業研究会

ライフデザイン学科2年生の23名が参加。着慣れないスーツ姿で緊張していた学生を就職支援課のスタッフがアドバイスをし、緊張を解していた一面も見られた。企業も各業界から29社から参加をいただいた。学生たちは、時間の許す限り多くの企業ブースに足を運び、各企業の説明に耳を傾けていた。

12月に開催された企業研究会では、ライフデザイン学科1年生の14名が参加。1年生の企業研究会では、業界研究の一環として行っており、積極的にブースを訪問するように就職支援課のスタッフから

アドバイスがされていた。参加企業は60社。昨年度より25社が増え、県内外から多くの人事担当者に参加していただいた。学生たちは積極的に企業のブースを回り、人事担当者の説明に耳を傾けていた。

昨年秋のリーマンショックに端を発する深刻な不況の中、大手企業の経営危機など、先行きに不安が広がり、多くの企業が採用を手控えている上、例年、秋以降に採用を行なう中小企業の経営状況も悪く内定率も伸びないという話題が広がっている。今の就職戦線は、第2の水河期に見舞われており、その厳しい状況の中でも、学生たちが希望する企業から内定をいただけるよう、就職支援課ではしっかりサポートをしていく。



第1回 八戸短期大学FD研修会

平成21年12月11日(金)、第1回八戸短期大学FD研修会が学内で開催された。第1回目の研修会では、「短期大学における教育活動の在り方について～幼児保育学科におけるGPAの活用を参考として～」をテーマに選定し、42名の教員が研修会に参加した。

GPAは、現在、幼児保育学科において、保育士資格並びに幼稚園教諭二種免許状の取得に関わる指導の基準として、その運用を行なっている。その取組を参考に、今後の教育活動への活用を短期大

学全体として検討する機会とし、本研修会が開催された。この研修会を契機とし、今後の教育内容や授業評価、講義概要書等の更なる改善を検討している。

研修会は、教育研究委員会 関川幸子委員長の開会挨拶の後、トークセッション、トークテーマに基づきプログラムが進行された。トークテーマについては、①各学科の現状と課題について、②各教員の抱える課題や問題について、

③GPA導入における各教員の考えや意見について、④グループ内独自のトークテーマについて等について、各教員の情報交換が行われた。最後に教育研究委員会顧問の内海副学長より、講評・総括をいただき終了した。



光星学院高校専攻科

日本赤十字社 救急法救急員養成講習会



平成21年12月12日・13日および19日20日の4日間、介護福祉科2年生を対象に

日本赤十字社救急法救急員養成講習会が開催されました。

これは病気やけが・災害から、まずは自分の安全を守り、傷病者を正しく救助し医師または救急隊などに引き継ぐまでの、救命手当及び応急手当の技術を身につけ、活用できることを目的としています。

最終日の実技試験の、三角巾を用いた包帯法では傷病者の不安や苦痛を考慮しながら、正確に早く処置ができるようにならなければいけないので、毎日のように休み時間や放課後を利用して練習し、全員

がその成果を発揮できました。

他にも講習では2グループに分かれ、心肺蘇生法・AEDの使用法、止血の仕方、骨折の手当などすべてを応用した演習が行われ、傷病者を発見し処置をする際には、一人が指揮者となり、冷静に観察・判断する能力が大切だと学びました。

また、傷病者の心理面に寄り添い、「大丈夫ですよ」と声かけすることにより、不安の軽減や安心感へつながるということを身をもって学ぶことができました。

今回の講習で学んだ専門知識と技術を活かし、今後の生活の中で事故や災害で傷病者を発見した際には、救命手当及び応急手当など勇気を持って行動していきたいと思います。

光星学院高等学校専攻科

介護福祉科2年 木下 美穂

平成21年10月27日から30日まで研修旅行に参加しました。主な研修先は、日産自動車いわき工場と第41回東京モーターショー見学です。

日産自動車いわき工場では、V型6気筒エンジンを生産しており、各自動車組み立て工場へ送られていきます。工場内はほぼオートメーション化されて、部品の運搬から組み立てまでロボットの仕事であり、人間の仕事はロボットのオペレーションや生産ラインでの抜き取り検査・完成品の試験などのように見受けられました。

生産工場ではミスや事故の危険が考えられますので、できる限りロボットを活用するということは安全でしかも高精度なモノができるのだと感じました。

また、東京モーターショーですが、前

回までと比較してかなり規模が縮小されたようです。

それでも自動車メーカーだけではなく、部品メーカーの展示や安全・環境対策に関する展示など、自動車を取り巻く産業や法人などのたくさんのブースがあり、我々自動車整備士を目指す者にはとても有意義な会場に思えました。

今回の研修旅行を終えて、自分がこれから携わっていくであろう自動車産業の重要性を再確認することができたと同時に、この経験を活かして今後の勉学にも力を入れていき

たいと思います。

光星学院高等学校専攻科

自動車科1年 東森 一晃

研修旅行を終えて



校外実習を終えて

平成21年11月11日から25日まで、自動車科1年生の校外実習がありました。



八戸市内及び近郊のディーラー・民間整備工場・二輪車販売店など計16社で、約2週間プロの仕事を目の当たりにすることにより、これから2級自動車整備士を目指す学生たちには良い刺激になりました。

例年のことですが、実習を終え学校へ戻った学生たちには変化がみられ、資格を得ることの重要性に気づいたり、あるいは社会人としての一歩を踏み出したような感じを受ける学生も見られます。

また、今回の校外実習後、初めての試みとしてお世話になった各企業の方々と「教育懇談会」を実施しました。

八戸プラザホテルにおいて行われた教育懇談会では、青森県自動車車体整備協同組合の八戸支部長さん始め7社の企業代表の方々と、専攻科PTA後援会会長や八戸市産業振興部産業政策課からもご参加いただき、貴重なご意見・ご要望をお聞かせくださいました。

自動車科では、いただいたご意見を今後の教育活動に活かし、専攻科の教育目標でもある「技術を磨き」「心を育て」「就職に強い」学生を育てよう指導していきたいと思います。

アクトの翼に参加して

このたび、アクトの翼に参加できたことは、大変うれしく、この貴重な機会を与えていただきましたことに深く感謝しています。

1月7日から1月10日までの3泊4日の台湾への旅行は、天候にも恵まれ、ホストファミリーの大門さんをはじめ、明德高等学校の陳聖毅くんや多くの方々の心温まる歓迎を受

け、楽しい旅行でした。

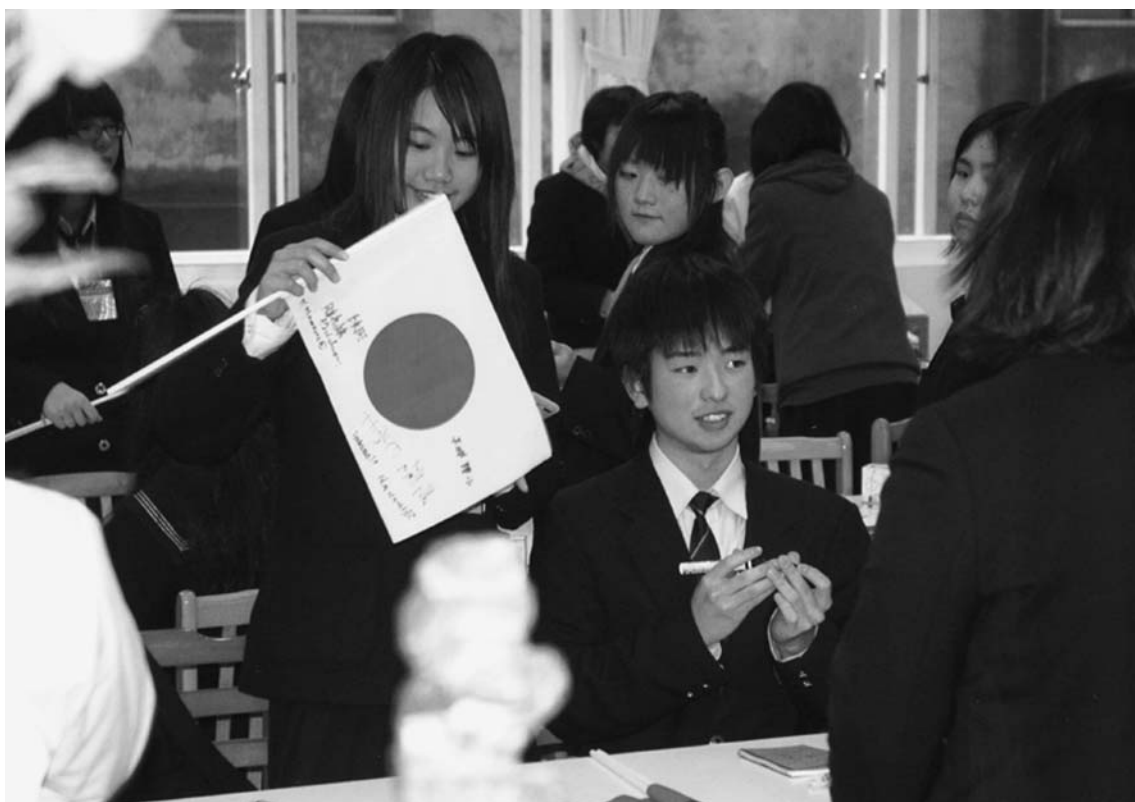
1月7日の夕方、台北空港に着いた僕たちは、鶯歌鎮のホテルに着くと、盛大なウエルカムパーティで、厚い歓迎を受けました。その後、ホームスティ先の大門さんのお宅では、改築したての3階のフロアを丸々僕のために貸して下さり、一人暮らしができるほどの設備で快適に過ごす

ことができました。

翌日は、三峡鎮にある明德高等学校での交流会がありました。陳くんが一日中、学校の中を案内してくれました。ミニ文化祭でのステージ発表を見学したり、ボクシングや柔道の部活動を見学したりして、充実した時間を過ごしました。お別れの際のプレゼント交換会では思わず涙が出てしまいました。3日目は、午後台北市内に入り、中正紀念堂、龍山寺、故宮博物院、忠烈祠を見学しました。

今回の旅を振り返ると、新しい発見とともに、日本との文化の違いを考えさせられ、改めて日本の良さを感じ取ることもできました。この体験を今後の生活に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

光星学院高等学校インターアクト部
部長 河村祐太郎（2年B組）



「友情の井戸」

— カムリエン高校との姉妹校協定締結 —

八戸市から直線距離にして約6500km。タイ国境に程近い、カンボジア王国の小さな集落に高山良二という日本人が暮らしている。NGO組織「JMAS（日本地雷処理を支援する会）」に所属する氏は、自衛官として培った経験を活かし現地にて住民参加型の地雷処理活動を展開している。地雷処理専門家である氏にとって、地雷を処理すること自体はそう難しくない。だが最も重要な事は、現地の人々が地雷の処理方法を学び、いずれは彼らの手だけでそれを行えるようになることだという。つまり自立の手助けをする事が高山氏の大きな役目なのだ。

村では大多数が農業に従事しており、主要な作物は米とキャッサバ

（芋）である。であるにも関わらず、農業用地には現在も地雷が大量に埋められている。実際に刈り取られた稲の切株の、ほんの数cmの場所にある対人地雷を目の当たりにし、厳しい現実を突きつけられた。幼い子どもたちが地雷の埋まった道無き道を歩いて水を汲みに出かける事も日常的だという。

「現地の人々にとって本当に必要な物や知識、技術を授ける事こそが真の海外支援のあり方である。」高山氏の印象的な言葉をヒントに、何が現地の人々に必要なかを考えた結果、近隣の村にあるカムリエン高校に井戸を寄贈するに至った。飲み水はもちろんのこと、来春完成予定の新校舎にある水洗トイレの機能向

上に重要な役割を果たすであろうこの井戸は「友情の井戸」と名付けられた。また、井戸寄贈をきっかけに光星学院高校とカムリエン高校は姉妹校協定を締結した。来春にはチェンターさんという女子生徒を留学生として迎え入れる計画も進んでいる。両校の関係が、将来カンボジアと日本に重要な役割を果たす事を望む。豊かな水を湛えた「友情の井戸」が、両国に潤れる事の無い喜びと希望をもたらしてくれる事を願おうではないか。

高山良二氏ブログ

<http://ameblo.jp/takayamaryoji/>

JMASホームページ

<http://jmas-ngo.jp/index.htm>



姉妹校協定締結式にて ～記念品交換～



「友情の井戸」を囲んで



対人地雷の処理方法を説明する高山良二氏



デマイナー（地雷処理員の呼称）の皆さんと



本校へ入学予定のチェンターさん（前列中央）とその家族の皆さん

思い出に残る修学旅行

高校時代の楽しみの一つである修学旅行が予定通り11月16日、総勢250名、八戸を出発。1日目は、新幹線・飛行機・バスによる12時間の移動。沖縄本部のホ



テルに着いたのはなんと夜の9時であった。さすがに生徒も職員もぐったり。沖縄は、亜熱帯海洋性気候のため年中温暖で海も美しく、珊瑚礁の発達や石灰岩の分布等、本土とかなり違った風土で明日からが楽しみ。2日目は残念ながら雨。小雨の中、海洋博記念公園内の美ら海水族館に移動。深さ10m・幅35m・厚さ60cmの世界一大きい水槽の中を悠々と泳ぐ、7mのジンベイザメや、マンタの姿を見て生徒感激。その後は琉球村・世界遺産の首里城を見学、国際通りを散策し、



生徒達は沖縄を満喫。3日目は、ひめゆりの塔で、第二次世界大戦末期の日米併せて25万人以上の犠牲者を出した沖縄戦での、写真や遺品を見て、戦争の悲惨さ、平和の大切さを実感。後大阪へ。待ちに待ったユニバーサル・スタジオ・ジャパンでたくさんのアトラクションやテーマパークで時間も足りないくらい。4日目は、京都市内散策後、修学旅行初の日本一大きい湖、琵琶湖でのミシガンクルーズ。スカイデッキから眺める琵琶湖の景観は心もリフレッシュ。壮大な湖に生徒感激。夜は夕食後カラオケ大会で、自慢の歌を熱唱し、最後の夜を過ごす。最終日は、清水寺を見学後帰路八戸へ。この修学旅行で体験したことが、自分の成長の糧となり、また高校時代の楽しい思い出の一つになったことを心より期待する。

イルミネーション点灯式

2009年10月9日の新聞にて、平成21年度八戸市景観賞「まちなみ空間部門」を光星学院高校が受賞したと大きく報じら

れた。八戸市景観賞の主旨は、周辺と調和した景観を持つ建物や町並みなどに贈られる「まちなみ空間部門」と、良好な

景観の保全へ向けた取り組みやその成果を表した建物に贈られる「景観づくり部門」の2部門となっている。

本校の受賞理由は「空間デザインを生かした低層校舎により、生徒・職員のみならず市民に心地よい開放感を与える一方、道路沿いには桜等の植栽を施し、地域の景観向上へ積極的に貢献する姿勢が感じられる」とのことだった。

この賞を受けて、校舎の美観をより一層引き立てる為に、12月1日より12月25日迄、イルミネーションが点灯された。本学院正門前に於いて行われた点灯式では、生徒会副会長2-B河村祐太郎君の挨拶後吹奏楽部によるハンドベル演奏が郊外に鳴り響き、カウントダウンが始まった。観衆約80人の見守る中、色とりどりのイルミネーションが一斉に点灯し、光星祭のカラオケ部門で優勝した3-E奈良佳織さんと有志による生演奏が行われた。式は大歓声の中、無事に終わった。



青森県高等学校総合文化祭 に参加して

青森県高等学校総合文化祭は、平成21年10月30日(金)から11月1日(日)まで青森市で開催された。

書道部門は、青森市民展示館1階から4階までを会場に県内41校・211点の秀作力作が展示された。併せて全国高等学校総合文化祭に青森県代表として参加した六名の大作も展示された。

審査の結果、最優秀賞2点、優秀賞5点、優良賞15点の計22点が選ばれた。本校からの出品者の中からは、劉詠詩(二尺×六尺対副)の創作作品を発表した保育福祉科2年の水野歩実さんが優良賞に輝いた。

文芸部門は、アピオ青森で予選通過作品が展示された。審査の結果、最優秀賞5点・優秀賞15点・優良賞60点が選ばれた。予選を通過し展示されたなかから入賞したのは4名であった。

詩部門で保育福祉科1年の切明畑里菜さん「rain」・優良賞に小平桃代美さん「ゆびきり」。短歌部門で保育福祉科3年金田夏稀さん「おそいよと言いつ

つ待っていてくれる家族そろって食べる夕飯」、俳句部門で保育福祉科1年山白麻衣子さん「紫陽花の心になって雨を聞く」の4名が入賞した。

吹奏楽部門では、八戸地区の私立高等学校5校の合同演奏で、ストラビンスキー作曲の「火の鳥」を演奏した。

平成22年8月に宮崎県で開催される第34回全国高等学校総合文化祭に書道部2年の水野歩実さんが代表として参加することが決定した。本校書道部は、5年連続通算12回目の青森県代表参加となる。書道部は、全国高文祭で特別賞・全日本高校大学書道展で大賞など多数の入賞者を排出し、昨年度青森県高等学校文化部活動奨励賞・東京青森県人会高等学校文化部活動特別奨励賞・青森県文化連盟賞等を授与され表彰を受けている。



スクールバス待合い場にログチェア設置

ログチェアの製作にあたり、7月頃校長先生から2号館脇のスクールバス待合い場に椅子を設けてもらいたいとの依頼

があり、建築コース三年の生徒と一緒に取り組むことになりました。材料は、十年前の第九回生徒の研究発表会において

優良賞を取った時のログハウスの丸太を利用することにしました。このログハウスは、当時前山科長(現在事務長)・松井主任(元副教頭)の先生と、当時の建築科の生徒達と共に半年かけて製作したものです。この思い出深い材料をそのままにしておくのはもったいないということから、再利用を考えた次第です。材料には丸太4本(加工済み3本)・角材3本(4寸角)を使い、デザインから手掛けました。丸太は断面形状がU型に加工され、上部に背割りがあるために、加工や仕上げをしていく際に一つ一つ形状に合わせ、木材を加工しながら細工するのが大変でした。隙間にコーキングを施し、最後に塗装をして完成することができました。

これからも材料を、再利用(エコ)して物を作る楽しさ、そして使ってくれる喜びを今後も実感させるようにしていきたいと思います。



生徒会

～ 一年を振り返って ～

昨年は大きな変革の年でした。アメリカ合衆国初の黒人大統領バラク・オバマ氏の誕生、民主党への政権交代、鳩山由紀夫首相の誕生など、国内外において様々な変革がありました。我が校でも、カンボジア王国バタンバン州カムリエン高校との国際交流の開始など新しい試みが始まりました。

私たち生徒会役員も、例年以上に生徒会活動に取り組みました。行事の企画や運営だけでなく、校外活動にも力をいれ、ポール・コールマンさ



んとの植樹を行い、全校一丸となって貴重な体験をすることが出来ました。他にも、ラジオの生放送に出演し、学校の紹介や行事の宣伝を行うなど、何事にも積極的にチャレンジした一年でした。しかし、全校の意見を行事に反映できなかったり、自分の役割を十分にこなす事が出来なかったりと、いくつかの反省点もあります。

新体制の生徒会役員の方々は、私たちの反省点を参考にして、より良い光星学院高校を目指して欲しいと思います。

前生徒会長 3A 川崎慎之助

生徒指導部の取り組み

「私学の生命線は生徒指導にあり」とよく耳にしますが、少子化の現在、本校でもあらゆる方面で学校改革がなされています。21年度スタートにあたり生徒指導部では、「規範意識を育てる教育」を目標に掲げ、日常的なルール、マナー指導を行ってきました。その中で最も力を入れていることは、基本的生活習慣を確立させることです。本来、小学校入学までに身につけているべき習慣が、未だ確立されていない生徒もあり、その生活習慣の乱れが問題行動と深く関係している場合が多いからです。また、良い生活習慣が定着しているかどうかは、次の段階である学習指導、進路指導に進むための重要な要素となっていることも私達教員は過去の経験から知っています。ですか

ら、どのような家庭環境で育ってきた生徒であっても、社会で通用する最低限の規範意識だけは育てなければならないと思っています。「制服を着崩さない」「横断歩道を渡る」など、当たり前のことを当たり前として徹底指導することが重要と考えています。また、生徒を指導する上で特効薬というものはありません。毎日の声かけと日常観察が何より大切とも考えています。今後もこれらを指導の柱とし教育活動を行っていこうと思っています。

次に健全育成に関する取り組みとして、今年度は二つの事業を行いました。一つ目は、5月18日、NTTドコモの専門スタッフによる「ケータイ安全教室」を開催しました。これはフィルタリングサー

ビスの普及促進と、携帯電話に関するマナーやトラブルの対処策を啓発する目的で行ったのですが、生徒達にとってはとても有益なものでした。

二つ目には、12月15日、五戸警察署地域課長の坂本氏を招き、「薬物乱用防止講話」を実施しました。坂本氏は薬物専門の部署に勤めた方で、実際に体験した生々しい話な



体験と感動の修学旅行

平成21年度の修学旅行が12月7日から11日の4泊5日で東京・京都・大阪で実施された。1日目は移動が大半であったが、東京都庁展望台・東京湾ディナークルーズがあり、参加した約100名の生徒は大会の景観の魅力を味わっていた。



2日目は都内の自主研修を実施した。それぞれの計画で一日楽しんでた。夜はルミネ・ザ・よしもと（観劇）の内容で、テレビとは違う生の笑いの魅力を存分に満喫していた。

3日目は京都市内観光（金閣寺・清水寺）と生ハッ橋つくりの体験学習を行なった。体験学習は初めての体験と言うことで興味深く行っていた。

4日目は大阪城見学、インスタンドラーメン発明記念館で体験学習、ユニバーサルスタジオ・ジャパンを訪れ、楽しい一日を送った。

5日目は移動のみであったが、初めて飛行機に乗った生徒も多く緊張と興奮のフライトの時間を過ごしたようである。

生徒の感想は様々であったが、

それぞれの内容にAランクをつける生徒が多かった。体験学習の人気も高く、「生ハッ橋作り」と世界でたった一つの「オリジナルカップメン」作りは好評だった。都内の自主研修はもちろんのこと、自主的に取り組む内容に意義のある修学旅行であったといえる。

また京都・大阪の旅も感動を覚えたという感想もあり、楽しいだけではない、体験と感動に彩られた修学旅行であった。

今後、更に生徒諸君が自主的かつ感動を覚えるような修学旅行を企画したいと関係者は願っている。



11月15日(日)、野辺地町のまかど温泉富士屋ホテルにおいて、野辺地西高校の同窓会総会が開催された。同窓会と同時に懇親会も開催され、盛会のうちに終了した。

同窓会の開催は久しぶりの開催である。地域の広さや開催時期の設定など諸般の事情から開催が一定しなかったが、参加者の数字が毎回話題となっていた。「たくさん人の集まる同窓会を！」の趣旨から、若い会員の参加を進めよう、という意図で「若い人の集まる同窓会の開催」を狙って展開された。

その活動のおかげか、同窓会総会・懇

同窓会・懇親会開催

親会において、55名の参加を数え、恩師や友人らと久しぶりの会話を楽しむ姿が随処に見られ、活気に満ちた集いとなった。参加した方達は20代前後の若い会員が多く見られ、なごやかで笑顔の広がるものとなった。

今回の盛会を次回以降にも実現すべく、さらに改善を加え、同窓会を早く進めるべく準備に入るとのことである。

再会の日を楽しみに会場を後にした。



祇園囃子保存部 ～伝統の継承を続けて～

野辺地西高校は毎夏、野辺地町の夏祭りに山車を出して連続して参加しているが、山車の運行を支えているのが、祇園



囃子保存部である。

同部は年間を通じて活動をしているが、夏祭りの参加の活躍だけでなく、野辺地町の行事にも参加要請が増え、徐々にその活動の幅を増やしている。

普段の活動は、週に1回、放課後の2時間、太鼓・三味線・笛のパート練習を行っている。部員は女子部員のみで、3年生2名、2年生8名の10名である。部員のうち半数が野辺地町外の生徒であり、入学後に初めて祭りを知った子も多い。日々の練習を通じて祭りの魅力を知り、

活気ある練習につながっているとのことである。

昨年の11月には、野辺地町観光協会主催で行われた「郷土の味を楽しむ会」で演奏を披露し、新聞に取り上げられるなど町内外の参加者の好評を得ている。

部長の細川あゆみさん（小湊出身）は「最初は慣れなくて大変でしたが、練習を通じてうまくなり、祭りの魅力が分かってきました。後輩にもこの活動をうまく引き継いでもらいたいと思います。」と語っている。

活動の幅が広がりつつある今、新人部員を増やし、伝統の継承に向けて野辺地西をアピールしたいと関係者は考えている。

八戸短期大学附属幼稚園

大学・短大との連携で深い教育を

本園では、八戸大学・八戸短期大学との連携による「創造的教育」を、開園以来展開してまいりました。特に、英語・造形・体育・音楽の分野を通じた「表現」に力を入れ、日々の教育を実践します。年度末に反省や見直しを行い、検討を重ね、連携を緊密にして、次年度の更に深い教育を目指しています。大学・短大の専門の先生方による、本園での指導の主

なものは、以下のとおりです。
アンソニー先生（大学）の、年長の子どもたちへの英語の指導、附田先生（短大）の、年長の子どもたちへのリトミックと音楽会に向けた指導、造形は、飯田先生（短大）に年中の子どもたちを指導していただいています。体育の担当は短大の橋本先生と岩館先生で、「体力・運動能力測定」を継続してきました。橋本先生

には運動会の組体操と、「星の子キッズクラブ」の「親子でダンス・体操を楽しもう」も教えていただきました。

八戸大学・八戸短期大学との連携は、子どもたちへの充実した教育を実現するとともに、保護者の方々、教員全員に大きな力を与えてくれています。これからも連携を緊密にして、より深い教育を進めてまいります。



聖アンナ幼稚園

「誕生会」保護者を招待！

子どもは誕生日になると名札の色が一つ上の年齢のものに変わるというのがとても嬉しいようである。毎月行われる本園の誕生会には子どもたちだけでなく、誕生児の保護者を招待し一緒にお祝いをしている。誕生会の中で園長先生が名前の謂われについて子どもに尋ねる。「みなさんの名前は誰がつけたのかな？」すると、「ママがさくらの花が好きだからさくらという名前！」という答えが返ってくる。両親が健やかな成長を願ってつけた大事な名前なのだという話をすると子どもも頷いている。

招待した保護者はほぼ九割の出席率。まさに子を思う親の姿であり定着しつつある。誕生会終了後、園長と保護者との懇談会。内容は年度によって変化させ必要と思われるものを組み込んでいる。時には「給食試食会」「モンテッソーリ教具・教材の紹介」など色々である。家庭教育の重要性が叫ばれている今、子育て

に何が必要か一緒に考えたいということとで実施している。今年度は、子どもを取り巻く環境、教育や行政、困っていることなど幅広く各分野を取り上げ意見の交換など話し合いがされている。幼稚園に関する意見や希望なども取り上げられる。保護者自身の考え方が子育てにより環境として反映してほしいと願い、この会が幼稚園と保護者の連携プレーで子どもの育ちを支えるものでありたいと思っている。



第二しなのめ幼稚園



感じるぜも大切に育てる



本園では、子どもたちが心を動かす体験をととして、自分を表現する気持ちをはぐくみ成長して欲しいと願い直接体験を大切にしています。五月にはじゃがいも、さつま芋、枝豆の苗植えを楽しみました。「ほーら、ミミズつかめた」ミミズ、だんご虫、小さな生き物達と出会う自然の中では笑顔をもこぼれます。味覚を感じる体験は、さくらんぼ狩り、ぶどう狩り、りんご狩り。「あまーい」「すっぱい」の聲が広い果樹園の中に、にぎやかに響いていました。引き潮の時のカニ採り。ごつごつした岩場の石をどかして見ると、驚いた子カニ達が右往左往。「海の水冷たくて気持ちいい」「カニのはさみおおきいな」潮騒の音を聞きながら、夏を感じることができました。年長組は、バケツで稲を、ミニプラン タ・でトマトを

育て毎日の水やり当番も楽しみの一つになり、勢いよく穂や葉を伸ばしていく栽培も楽しみました。秋のいも掘りでは、いもづるをみんなで引っ張りあい、「うんとこしょ、うんとこしょ、わーいぬけたよ、ぬけたよ」。にぎやかな歓声が上がりました。園庭で、ほくほくした、やきいもを味わい「いただきます。ありがとう」と自然の恵みに感謝しました。長

いいもずるは、手作りのかわいいサンタを作って飾り、自分だけのクリスマスリースに完成させました。

私達は、さまざまな自然を楽しむ体験をととして、子ども達の心を耕し、一人ひとりが自己を発揮表現出来る明るく活気のあるクラスづくりと、毎日が楽しい、幼稚園大好きな心待ちで、園生活を生き生き過ごせる子どもを育てていきたいと思っています。



びわの幼稚園

初の試み! 「星の子ミニコンサート」 inびわの

八戸短期大学附属4幼稚園（附属幼稚園、聖アンナ幼稚園、第2しなのめ幼稚園、びわの幼稚園）の園児が八戸市公会堂を会場に一堂に会し、音楽発表をする第29回目の「星の子音楽会」が今年度も11月10日(火)に予定されていた。

しかし、新型インフルエンザが蔓延をし始めたため、その開催実施について、10月28日(水)に緊急園長会議が開催され、罹患状況から今年度の音楽会は中止と決断された。

このことについてびわの幼稚園では、10月30日(金)に開催したPTA役員会に報告したところ、びわの幼稚園児の罹患状況（罹患患者ゼロ名）から単独開催ができないのか？ぜひ開催して欲しい！との保護者からの要望があり、「父兄も手伝います」との力強いメッセージをいただき「ミニコンサート」という形で開催することとしました。

開催日は、多くの保護者がもうすでに

第29回星の子音楽会を楽しみにして仕事の休暇をとっているという状況から予定通りの11月10日(火)開催実施とし、会場は、準備期間の短さ、そして、移動などの時間、今後の準備活動内容などを考慮し、隣接する光星学院野辺地西高等学校に協力していただくこととしました。

初の試み! 「星の子ミニコンサート」～inびわのでは、駐車場、受付、案内、会場準備、司会進行など、多岐にわたり西高生の協力を得、全園児によるオープニングから始まり、満3歳児・年少組の歌、年中児組の表現、年長児が歌、合奏

を皆さんの前で発表しました。

ミニコンサートを参観した御父母からは、「子供たちの晴れ姿を見たいという私たちの気持ちに精一杯応えてくださりありがとうございました」、「みんなすばらしい出来で、感動しました」などのお言葉をいただき、また、お手伝いをした西高校の生徒からは「楽器で演奏しているときはみんな暗記して弾いていたので驚きました」、「一人一人がきちんと音を出していてとても元気な合奏でした」などと…初の試み! 「星の子ミニコンサート」は皆さんのご協力を得て終了しました。





八戸短期大学看護学科宣誓式

日 時 平成22年 5 月15日(土) 10:00～
 場 所 八戸大学会館大講義室
 特別講演 11:00～12:00
 演 題 「近代看護の歴史を通して望む看護の将来」
 講 師 聖マリア学院大学学長 矢 野 正 子 氏



第16号表紙

八戸短期大学附属びわの幼稚園 餅つき会

平成21年12月16日びわの幼稚園において、毎年恒例の「餅つき会」が開催された。餅つき会は、保護者の方々のお手伝いをいただき、園児全員が餅つきを行うことができた。最後に年少、年中、年長に分かれて記念写真を撮った。表紙の写真は年長組である。



学院キャンパスだより第16号

発行 学校法人光星学院
 編集 学院広報編集委員会
 〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98
 TEL 0178-30-1411
 URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>